

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム 木かげ		
所在地	千葉県緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	2019年1月26日	評価結果市町村受理日	平成31年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	2019年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんにも「木かげで良かった」と感じて頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム名「木かげ」が示すシンボルツリーの楠が広い中庭にある。地域との関係性も構築できており、中庭には地域の人達の協力でできた家庭菜園もあり、近隣の子供達も遊びにも来る。菜園の作業や庭、部屋の掃除、昼食準備の手伝いなどさまざまな地域のボランティアがホームを来訪している。利用者が重度化した場合にホームとしてできることを文書で説明しており、希望に応じて最後までホームで生活することができることを伝えており、この1年で5名の看取りを行った。ホームでは今年度、福祉厚生の一環として職員向けの休憩施設を新たに設けるなど、職員が働きやすい職場をつくるよう環境整備もしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑う門には福来る」を理念として、管理室の皆が見える場所に貼り出し、共有している。	職員は普段の生活の中で自然に笑いが出るような支援に心がけ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンのイベントに参加させて頂いたり、近隣の方にも入居者さんと共に挨拶を交わすなど、受け入れて頂けているように感じる。	地域との交流は大切にしており、訪問日にもボランティアが来訪し利用者や交流している様子が見られた。広い中庭は地域に開放しており、住民は自由に出入りしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は機会が減っているが、管理者が講習会に参加したりしている。近所の方々にも、理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者を主として定期的に行っている。ご家族さんや民生委員さん、ボランティアの方にも参加して頂き、意見を出して頂いている。	3か月に1回開催し、身体拘束廃止権利擁護委員会を同時に行っている。会議には地域住民や地域包括支援センター職員、社会福祉協議会などの参加がある。議事録の要点を抜粋して家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡は管理者が主に行い、ケアサービスの取り組みの話し合いをしながら協力関係を築いている。	地域包括支援センターとは密に連絡を取っている。また、市の担当課に相談したり、行政主催の研修に職員が参加するなど、関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や会議の場で話し合い共有している。身体拘束は行っていない。夜間(20時～7時)は安全確保の為に玄関の施錠を行っている。	業務会議で身体拘束に関する勉強会を行っている。会議に参加できない職員には個別に説明している。さらに、身体拘束廃止権利擁護委員会を設置して、ホーム全体で身体拘束をしないケアの徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、勉強会や会議の場で話し合いを行いつつ、職員同士声をかけあい気を付けるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者との話し合いは、管理者が主に行っている。職員は管理者からの説明、或いは個々に勉強の機会を持つ形である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は管理者が主に行っている。契約内容に納得していただけるように、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新の際や有事の際ご家族に連絡し、ご要望を伺っている。また、意見箱を設置し、直接言い辛い意見も伝えて頂けるようにしている。	毎月担当職員が家族などに手紙を送っており、意見があれば聞くようにしている。また、メールを活用する場合もある。出された意見は反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見は管理者が聞き、管理者から代表者へと報告する形を取っている。職員の意見や提案は言いやすい環境を作られているように感じる。	管理者は、職員が発言できる場を積極的に設け、意見を汲み取るよう努めている。職員の意見から、車いすのまま乗車ができる車輛を購入するなど意見を検討し、反映するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や実績に関して、管理者から代表者への報告を通じて把握し、職場環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修については、掲示板に貼り出すことで希望者が受けられるように機会を作っている。法人内の勉強会は、職員間で日取りを決め行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流については、研修を受けた際などのみに留まっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からのご要望は密に伺い、またサービス初期においてはご様子やお話されている内容等の記録を小まめに行い、ご本人が求めているものの把握・安心して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、今までの生活歴を記入して頂き、面会時やメール・電話での連絡等でご要望を伺い、実践に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴やご本人のお話、表情などから、必要とされている事を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話を元に関係づくりを行い、生活を共にする関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご本人のご様子を伝える手紙・写真を送付する他、何か変化がある時には電話・メールにて報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々馴染みの方が面会に来る際は、お話ができるように環境を作っている。こちらから連絡を取ったりは特にしていない。	近隣店舗の店員と顔馴染みになっており、挨拶を交わしている。知人や友人の来訪は限られているが、地域住民の出入りは多く、ホームが交流場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要な時はスタッフが入居者さん同士の間に入り、会話やカラオケなど楽しませている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人は、殆どの方は退去時は亡くなられる時といったことが多いが、その後ご家族さんに関しては、遊びに来ていただけたりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に、ここでのご要望を直接伺ったり、困難な場合は普段のご様子や発言から推測し検討している。	日常の中で、利用者から直接意向などを聞いて記録に残している。困難な利用者については、生活歴や表情などから思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族さんに書いて頂いたご本人の生活歴や、日々のケース記録、個人ファイルなどで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートやケース記録にて記述し、共有・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は、ご本人・ご家族にご要望を伺い、希望があればご家族にも会議に参加して頂き意見を募っている。	日常の様子は、家族に毎月手紙で伝え、ケース会議への参加も呼びかけており、今年度1組の家族参加があった。計画作成担当者は職員の意見を踏まえ、主治医の意見も取り入れて介護計画を作成している。モニタリングは、担当職員が情報収集してまとめ、更新時に家族にも情報提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた事・特に共有したい事、何らかの変化に関して、ケース記録に赤字で目立つように記載し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン更新の際、ご本人にその時必要なサービスをスタッフ全員から意見を募り検討している。既存サービス外の利用者はあまり出てはいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あまり機会としては多く取れていないが、地域のボランティアの方の協力を得つつ、お話しして頂いたり、スタッフと共にコンビニに行ったりはしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	武村内科医院をかかりつけ医として、定期的に受診を行い、日々の変化は都度Drに報告している。	入居時に、これまでのかかりつけ医かホーム協力医に変更するか選択してもらっている。家族の希望でこれまでのかかりつけ医を継続する場合もある。訪問内科、訪問歯科のほか、受診は職員が付き添い、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいないので、受診時に武村内科の看護師へ報告・相談を行っている。日々の状態把握については職員間で行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメントシートを提出し、ご本人の情報共有に努めると共に、環境変化による負担の軽減のため早期退院できるように話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・ご家族さんとの相談の下、早期より方針を話し合い、その方針に基づいて終末期に備えている。看取り介護を希望される方が多く、場合により訪問看護も利用しながら対応している。	重度化した場合にホームでできることを文書にして家族などに説明している。希望に応じて看取りまで行っており、この1年で5名を看取った実績がある。リビングの一角にベッドを置いて、家族、職員、利用者などホーム全体で見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い、不定期にだがスタッフ間で確認しあっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の協力の元、避難訓練を定期的に行っている。	避難訓練は、日中及び夜間の火災を想定し、消防署と連携した消防総合訓練も含めて3回実施している。緊急時や災害時のマニュアルは、リビングの目につくところに掲示している。災害に備え、水、乾パン、缶詰、カセットボンベストーブ、釜戸などを準備している。また、日頃から近所付き合いがあり、協力を得られる関係性ができている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や性格などを書類や日々のご様子から把握し、声かけの仕方や、接し方をその人に合わせて変え対応している。	ホーム便りに載せる写真については入居時に同意を得ている。ホーム長は「寄り添うこと」を大切にしており、日頃から職員にも伝えるようにしており、職員同士でアドバイスし合う場面も見られるようになった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定できる方に関しては、ご本人にどうしたいか都度伺うようにしている。日常会話も記録に残しながら、ご本人の思いを把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にしている。緊急性のある場合や、危険がある場合などを除いては、ご本人の意志を優先して過ごして頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定の出来る方は衣類をいくつか提示して選んでもらったり、女性の方はたまにマニキュアを付けて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現状のユニットの状態として、盛り付けを一緒にすることは難しくなりましたが、できる方には片付けや皿拭きなど手伝って頂いている。	利用者の嗜好や希望を伝え、食材は専門の業者に依頼している。利用者は盛り付けや洗い物などできることで関わっている。外食したり、お寿司を買ってくることもあり、食事の楽しみに変化をつけている。今後、献立に季節の果物などを取り入れるような工夫にも期待される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度チェック表に記載し、その日のスタッフ間で共有している。体重減少が著しく見られる方は、エンシェアを補助食として摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には声掛けにてしていただき、難しい方には介助にて口腔ケアをさせて頂いている。うがいが難しい方には吸引歯ブラシでの口腔ケアを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、排泄状況の共有をしている。ご本人の排泄パターンの把握に努め、その時間に合わせたトイレ誘導を行っている。	日々の記録から排泄パターンを把握し、座位が取れる利用者については日中はできる限りトイレでの排泄を促している。また、声かけや排泄介助にあたってはプライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	粉末茶やオリゴ糖を飲んで頂いたり、日々のマッサージを行っている。未排便の日数により、下剤を調節して内服して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人希望を伺いつつ、入りたい方にはなるべく入って頂ける様にしている。日数が空いてしまっている方を優先することはある。時間に関しては、職員人数の多い昼間が中心である。	入浴は週2回を目安に、職員配置の多い昼間を中心になるべく利用者の希望に添うよう努めており、同姓介助を基本としている。入浴は嫌だという利用者には、その原因を探りながら対応している。入浴剤や柚子湯など、入浴が楽しみとなるような工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方はお部屋に戻って休まれることもある。ずっと寝てしまわない様に声かけは行っている。夜間は安心して休めるように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧を個人ファイルにまとめ、個々で把握に努めている。処方薬の変更や、日々の中で変化が有った場合は、申し送りや記録に残し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除などでは、一人一人のできることを考え、できることを手伝って頂ける様に働きかけを行っている。イベント時は、皆さんの食べたい物を伺い、食べられるように企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	機会としてはあまり多くとれていないが、地域のイベントなど行ける方は一緒に出掛けたりしている。その日の希望に添って、という形だとあまり行けないことも多い。	季節のみかん狩りや初詣、雛祭り見物等に出かけている。また、職員が付き添って週に数回散歩する利用者や、個別に誕生日祝いで出かけたり、家族との墓参りに行く人もいる。	外出の機会はあるものの、事業所前の歩道が狭い等の環境要因で外出の機会が少なくなっている。職員間で話し合い、工夫しながら、さらなる支援に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を所持されている方は現状あまり居ない。ご家族様との相談の元、ご自身で少額のお金を持たれている方はいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があり、ご家族さんの了承を得られている場合は、電話をかけたりもしている。電話が掛かってきた場合は取り次いでいる。手紙に関しては、現状としてやりとりされている方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度湿度計をこまめにチェックし、室温・湿度に気を付けつつ、季節の花などを飾ったりしている。	リビングは食事用のテーブルや椅子の他、テレビの前にソファを置き、ゆっくり見られるようにしている。広い中庭は、利用者と一緒に洗濯物を干したり、近所の子どもたちが遊びに来るなど、地域との交流の場にもなっている。	訪問した2月にはリビングにまだクリスマスの飾りがあった。季節感への配慮も必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士一緒に過ごせる様に、また会話を楽しめるようにスタッフも間に入りつつ環境作りをしている。1人になりたい方は居室に行かれる事もあるが、思い思いに過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた馴染みの品物を持ってきていただき、居室に置いたり使用して頂いている。	家族が中心となって居室をつくっている。畳や使い慣れた布団、足踏みミシン、ダンス等が置かれている部屋もあり、これまでの暮らしが継続されていることがうかがえた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	清掃や、整頓など、ご本人ができることはして頂ける様に働きかけ、職員も一緒に行ったりしている。ネームプレートなどで、場所やものがわかりやすいように表示している。		